

保護者のみなさまへ

令和5年3月9日

大和高田市立高田小学校
校長 生田 義人

令和4年度「学校評価」について（お知らせ）

早春の候、保護者のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じ上げます。平素は、本校教育にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、12月に全校児童及び保護者、教職員を対象にアンケート（アンケート結果は学校ホームページに掲載）を実施しました。そして、それらを参考に学校の自己評価を行い、さらに、自己評価をもとに、先日、学校関係者評価をいただきました。その概要を報告させていただきます。

1. 自己評価結果から見える成果(◎)と課題(△)

①保護者・地域との連携、教職員の資質向上について

- ・「授業がわかりやすいと言っている（保ア）」の肯定率は81.9%とやや向上したが「授業がわかりやすい（児ア）」は87.1%とやや低下している。達成感を感じられる授業をにしていけるためにも、学級間の情報交換等をしっかりと行っていきたい。
- ・「教育活動をわかりやすく伝えている（教ア）」は約90%と高かったが、（保ア）は72.2%で昨年並みである。個人情報保護を重視しながら、質の高い通信・HP作成を目指した。また、連絡網メールの効果的な活用についても探求していく。

△昨年度と比較すると、ゲストティーチャーの招聘が増えたが、地域ボランティアの方々の参加については十分に行えていない。

②学力、体力・運動能力向上について

- ◎「授業でよくタブレットなどのICT機器を使っている（児ア）」は84.9%と高評価である。また、「ICTを活用した授業の推進(保ア)」は76.2%と2020年度以降少しずつ上昇している。今後も主体的で対話的な学習の一助となる使い方を試行していく。
- △「先生の指示や『学習のルール』をしっかりと守り学習している（児ア）」は89.0%と高いが、学習規律の徹底はまだ不十分である。早期改善を図るとともに、生徒指導部と協働しながら基本的な生活習慣や身だしなみの観点からも見直したい。
- △「本を読む習慣が付いてきた（児ア）」は74.6%に停っている。紙芝居や読み聞かせ、教員も一緒に読書するなど学年に合わせた読書意欲の向上のための取組を継続する。
- △「外で遊んでいる（児ア）」は58.5%であった。保アでも70.0%と決して高くない。外遊びを活性化させるため、遊び道具の整備とともに日常的な働きかけを行う。

③人権教育について

- ◎「いじめはどんなことがあってもしてはいけない（児ア 6）」の肯定率は96.3%と高かったが、さらなる人権意識の高揚を図り、肯定率100%を目指す。

- ・「悩みやトラブルについて話を聞いてくれる（児ア）」は87.4%と高評価ではあるが、昨年度より6.8%低下している。児童の話をしっかり聞き、安心できる学校づくりを目指す。
- ・「相手を傷つける言動をしていない（児ア）」は80%台前半で、「学校は心を育む取組や指導に力を入れている（保ア）」も81.1%と同程度の評価となっている。児童をじっくりと見て「認める」「ほめる」を多くすることで自己有用感を育み、自分も他人も大切にできる子どもに育てたい。その上で、「非難」ではなく「支援」する言葉がけのできる児童の育成を目指す。

④特別支援教育について

- ◎「支援学級児童はすすすくタイムを楽しみにしている（教ア）」は100%であり、参加児童に達成感を味わわせることができた。今後も特別支援学級担任と交流学級担任との連携を図りながら、すすすくタイムの充実を目指したい。
- △「先生はすすすく通信等を使ってすぎの子学級の学習の様子を教えてくれる（児ア）」が72.7%であることから十分な啓発とは言えない。授業参観後の児童への指導に厚みを持たせ、特別支援学級の効果的な啓発に繋げたい。

⑤学校生活全般について

- ・（保ア）からは「社会のルール」「公共のマナー」は備わっていると考えられるが、「ろうか歩行など学校のルールを守っている（児ア）」は77.8%で停まっている。今以上に指導する教員の意識を高め、規範意識の向上を目指す。
- △「元気のよいあいさつをしている（児ア）」は73.9%ではあるが、「自ら進んで」「大きな声で」あいさつしている児童は少ない。次年度もくり返し、「あいさつ運動」などの取組を活性化させ、自分からあいさつできる児童の育成を目指す。

2. 学校関係者評価

- ・国語では、単語をつなげるような話し方になっていないか、順序立てて話せているか。国語力がないと数学も解けない、「誰が」「何を」といった文法も大切にしてほしい。
- ・算数では、一つつまずくとその後わからなくなる。低学年からの積み上げを大切にしてください。
- ・学力を上げることも大事だが、登校率を上げることが第一だと考える。
- ・子どもの（安心できる）居場所はあればあるほど良い。学校が、子どもの居場所になってくれることを願う。
- ・あいさつに加え、「ありがとう」「ごめんね」等、周りの大人（家族、地域、教員）がお手本となるよう心掛けないと思う。
- ・学校に任せっきりにしていないか、家庭でも見直してもらえれば、子どものさらなる成長につながると思う。

※評価結果を真摯に受け止め、来年度に向けて取組を前進させていきたいと思っております。保護者の方々のさらなるご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。